

2010年2月4日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社  
ノバルティス地域医療賞委員会

## 第17回ノバルティス地域医療賞受賞者決定

2009年12月に行われましたノバルティス地域医療賞委員会におきまして「第17回ノバルティス地域医療賞」の受賞者5名が下記のとおり決定いたしました。この賞は、地域に密着した医療活動を通じ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献した日本医師会会員を顕彰するものです。1993年に設立され、毎年5名が選ばれています。

受賞者には、2月4日に東京のホテルオークラにおいて行われた贈呈式で、表彰状と記念楯、副賞として100万円が贈呈されました。

記

＜第17回ノバルティス地域医療賞 受賞者＞五十音順・敬称略

地域	受賞者	年齢	性別	功績タイトル
山口県岩国市	いのうえ きよし 井上 清	75歳	男性	自らの病との闘いのなか、情熱と責任ある地域医療への貢献
山梨県甲府市	はやし まさたか 林 正高	75歳	男性	長年にわたる勤務医の立場から山梨県の医学会の発展・向上への貢献
佐賀県武雄市	ぶっさか やすはる 佛坂 泰治	90歳	男性	長きにわたる町医者としての地域医療への貢献
広島県呉市	ますたに やすこ 升谷 靖子	93歳	女性	60年もの長きにわたる地域住民の健康増進への貢献
栃木県宇都宮市	よしの ながとし 吉野 良壽	76歳	男性	長きにわたる学校心臓検診事業と地域医療への貢献

以上

- 添付資料：「第17回ノバルティス地域医療賞」受賞者の略歴と功績  
ノバルティス地域医療賞の経緯  
ノバルティス地域医療賞の規定  
ノバルティス地域医療賞委員会委員  
第1回～16回受賞者一覧

いのうえ きよし

## 井上 清 (75歳)

(昭和35年 九州大学医学部卒業 山口県医師会)

### [功績]

昭和46年に開業、自らが平成13年に胃がん、肺がんの手術を受け、その後約8年余りは、転移病巣との闘いであった。その間、平成14年に医院での診療継続は困難と判断し閉院したが、強い診療の要請が多く寄せられ、近くの病院で非常勤医師として可及的な範囲での診療をすることとなった。一方、平成16年に医師会病院に回復期リハビリテーション施設が開設されることになった折、肝心の担当医師の充足がままならず医師会として困窮していたところ、担がん状態でありながら外来部門の診療を引き受け、リハビリ施設の稼動に貢献をした。かつて、医師会役員の当事者として立ち上げに奔走した医師会病院の先行きに責任を感じながらの決断と、加えて地域住民への愛情、地域医療への情熱がなした功績である。

### [現職]

医療法人岩国病院、岩国市医療センター医師会病院

はやし まさたか

## 林 正高 (75歳)

(昭和37年 信州大学医学部卒業 山梨県医師会)

### [功績]

市立甲府病院を退職したが、請われて通算38年余、現在も嘱託医として山梨県下で治療にあたっており、その医の原点に立っての懇切丁寧な診療には信頼が寄せられている。特に神経内科の専門医としては、患者さんの家族を含めて病気の治療やアドバイスにあたる姿が、多くの友の会会員から慕われている。一方、山梨県医学会では、神経内科医を代表して運営に参画しており、長年にわたって山梨医学誌の編集委員会委員として貢献してきた。また山梨県における日本住血吸虫症の研究、治療にも心血を注ぎ、昭和60年の地方病撲滅宣言へ向けての功績は、現在でも高く評価されている。その他、県行政にも積極的に協力を行い、山梨県特定疾患等対策協議会委員も長く務め、協議会の纏め役として活躍し、県の難病対策、県民の健康確保に多大な貢献をしている。

### [現職]

市立甲府病院

ぶっさか やすはる  
**佛坂 泰治 (90歳)**

(昭和16年 九州医学専門学校卒業 佐賀県医師会)

[功績]

昭和22年に開業以来、夜間の救急患者は不在時を除き全て受け入れ、外来患者の話に真摯に耳を傾ける姿勢は、長きにわたって地域住民に大変慕われ感謝されてきた。診療の傍ら、地区を越えた学校検診や住民検診を始め、母子保健事業の3歳児検診、耳鼻咽喉科検診、町内の幼稚園から小中高、身障者施設まで広範囲に亘る各施設に出向いて、町民の健康増進および疾病予防のために尽力、その活動は現在も継続している。その他にも地域の老人会や婦人会の講演活動により、健康についての啓発活動を積極的に行っている。また会員であるボランティア団体「認知症について語る会」の研修会にも熱心に参加し、そこで得られた情報などを、会員や施設職員に還元するなど、その情熱と積極的な姿勢に、関係者からは今後も引き続き地域医療に関わって頂きたいと強く希望されている。

[現職]

佛坂医院名誉院長、特別養護老人ホームそよかぜの杜配置医

ますたに やすこ  
**升谷 靖子 (93歳)**

(昭和13年 帝国女子医学薬学専門学校卒業 広島県医師会)

[功績]

昭和24年に豊浜町豊島で開業して以来60年、戦後の混乱期、経済窮乏を乗り越え、93歳の今日も院長として現役で診療に携わっており、その卓越した知識と豊富な経験をもって精力的に島民の健康増進に努めている。昭和30年から40年にかけて新生児の死亡率が全国で1,2位という時期があったが、行政、町民の方々と協力して母子の栄養、生活指導を行うなどの意識改革に取り組み、その苦境を乗り越った。また約40年の長きにわたり地元小学校の校医も務め、離島ゆえの厳しい環境状況にあっても、島民が十分、かつより良い医療を受けることが出来る環境を整えることに重点的に取り組んでいる。こういった長年にわたる地域住民の安定した健康維持に尽力している姿が、島民の精神的な支えになっており、厚い信頼を寄せられている。

[現職]

医療法人社団升谷医院理事長、医院長

よしの ながとし  
吉野 良壽 (76歳)

(昭和35年 日本大学医学部卒業 栃木県医師会)

[功績]

昭和44年に宇都宮市に小児科医院を開設、以来40年の長きにわたり地域医療に貢献してきた。その間、宇都宮市心臓検診判定委員会委員として学校心臓検診事業に従事し、先天性心疾患の早期発見と早期措置、及び心臓疾患による突然死の防止と事後管理指導による健康の確保を提唱した。その結果、宇都宮市が昭和45年に開始した幼児心臓検診に続き、昭和56年からは学校心臓検診（中学1年）が全県下で実施されることとなった。心臓検診に献身的に打ち込み、その成果は栃木県総合医学会に発表し、学校保健の普及向上に貢献している。また宇都宮市小児科医会会長としても小児科医師の先頭に立ち、指導的立場を担っている。宇都宮市の実施する夜間休日救急診療所においては、休日・冬期の繁忙期に小児科医を出務することに尽力し、市民にとっては大変心強いものとなっている。

[現職]

医療法人寿幸会吉野医院院長

## ノバルティス地域医療賞の経緯

1993年、当時の日本チバガイギー株式会社は、日本医師会の協力を得て、Ciba 地域医療賞委員会（現：ノバルティス地域医療賞委員会）を設立し、地域医療に貢献されている日本医師会会員を顕彰する制度が発足いたしました。

この制度は、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された医師会会員の方を顕彰するもので、名称は「Ciba 地域医療賞」とされました。

1994年に第1回の贈呈式を開催し、その後、毎年1回、5名ずつの先生方が受賞されています。

なお、1997年4月に日本チバガイギー株式会社とサンド薬品株式会社が統合し、ノバルティス ファーマ株式会社となりましたので、日本医師会のご理解のもと「ノバルティス地域医療賞」と名称を改めました。

本賞の運営および受賞者の選考については、別紙のとおり、日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表者で構成されるノバルティス地域医療賞委員会が行います。

本賞の概要につきましては、別紙のノバルティス地域医療賞の規定をご参照ください。

## ノバルティス地域医療賞の規定

- <目的> 全国各地で住民に密着して医療活動に従事し優れた功績をあげ地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献された、日本医師会会員の方を表彰する。
- <主催> ノバルティス地域医療賞委員会
- <後援> 社団法人 日本医師会
- <表彰> 日本医師会会長または各都道府県医師会会長から推薦された候補者の中から「ノバルティス地域医療賞委員会」（日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表で構成）が受賞者を選考し、毎年一回表彰する。  
受賞者には賞状と記念盾および副賞 100 万円を贈呈する。

- <応募要領>
- (1) 対象者  
日本国内を主たる活動地とする日本医師会会員とする。  
(グループ活動は除く)
  - (2) 推薦  
原則として、1 推薦者から 1 名とする。
  - (3) 応募方法  
推薦者は所定の用紙にて推薦し、本年は 10 月 31 日迄にノバルティス地域医療賞委員会事務局に提出する。
  - (4) 事務局  
「ノバルティス地域医療賞委員会事務局」

〒106-8618

東京都港区西麻布4丁目17番30号

ノバルティス ファーマ株式会社

渉外統括部内

電話：03-3797-1448

FAX：03-3797-4497

※ ご応募に際しての推薦書記載の個人情報に関しましては、本賞の選考や受賞者の報道関係者への発表に使用させていただき、それ以外の目的には利用いたしません。

## ノバルティス地域医療賞委員会委員

社団法人 日本医師会（5名）

委員長

唐澤 祥人 会長

宝住 与一 副会長

羽生田 俊 常任理事

飯沼 雅朗 常任理事

中川 俊男 常任理事

学識経験者（1名）

森岡 恭彦 日本赤十字社医療センター 名誉院長

東京大学 名誉教授

ノバルティスホールディングジャパン株式会社（1名）

大橋 勇郎 取締役副会長

